

エコアクション21

# 環境活動レポート

53期

平成26年10月～平成27年9月

平成27年10月23日

株式会社 伊藤組

代表取締役 伊藤智仁

## 取組の対象組織・活動

### 建設業 事業所概要

#### (1) 事業者名及び代表者名

株式会社 伊藤組

代表取締役 伊藤智仁

#### (2) 所在地

・本社 岩手県花巻市山の神 797 番地 1

電話 0198-24-1193 FAX 0198-24-9798

・機材センター（二枚橋中間処理場）

岩手県花巻市二枚橋 5 地割 473 番 15

・幸田最終処分場 岩手県花巻市幸田第 8 地割 407-1

・滝沢中間処理場 岩手県岩手郡滝沢村字後 268 番 585、268 番 1078

・盛岡支店 岩手県盛岡市清水町 6-1

・北上営業所 岩手県北上市鬼柳町都鳥 232-1

・山の神給油所 岩手県花巻市山の神 812

#### (3) 環境管理責任者名及び連絡先

責任者：取締役工事担当 高橋潤吉

連絡先：所在地本社と同様

e-mail : junkichi@itougumi.co.jp

#### (4) 事業内容

1. 土木、建築の設計及び請負
2. アスファルト合材の販売
3. 産業廃棄物の処理
4. 石油製品の販売
5. 不動産売買、仲介及び斡旋
6. 不動産の賃貸
7. 地盤及び骨材の調査、試験、計測及び解析
8. 前各号に付帯する一切の事業

#### (5) 認証登録範囲

全社、全事業活動、全従業員を対象とする。

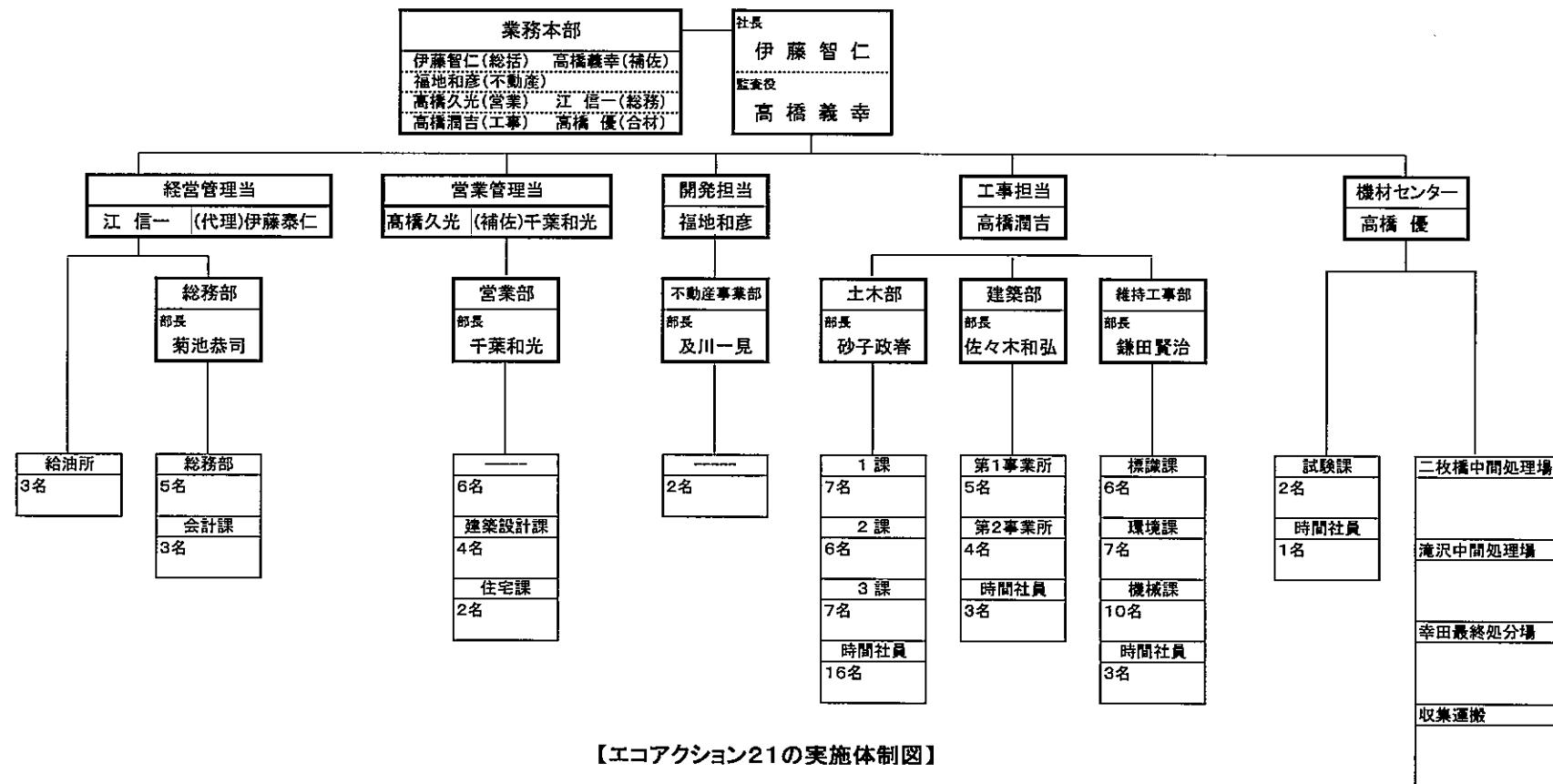
（ただし共同事業体、関連企業への出向者は除く）

#### (6) 事業規模

	単位	第51期	第52期	第53期
売上高	百万円	5,972	6,732	7,302
土木		1,912	2,115	1,354
建築		2,107	2,732	4,216
工事その他		191	51	201
兼業		1,759	1,834	1,631
(兼業の内産廃処理)		(45)	(54)	(51)
従業員（正社員）	人	135 (103)	128 (128)	135 (135)
敷地面積	m <sup>2</sup>		71,357	
最終処分場面積	m <sup>2</sup>		22,562	
埋立容量	m <sup>3</sup>	77,200 (H27.3月末残容量: 25,496 m <sup>3</sup> )		

#### (7) 事業年度 10月～9月（産廃については、集計上、4月～3月とする）

## 2. 株式会社 伊藤組 【EA21認証登録範囲】

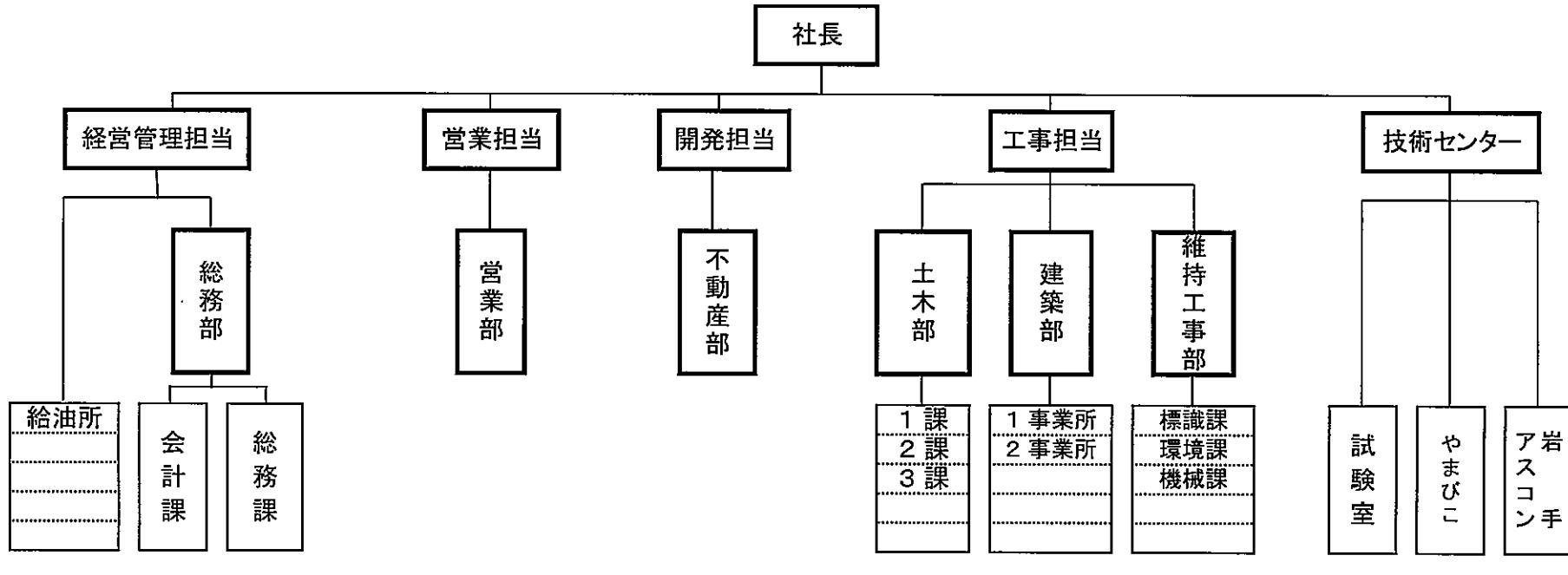


社長——【取締役会】  
 環境管理責任者  
 取締役管理担当 高橋潤吉  
 その他、取締役にて構成  
 内部監査機関も兼務

【事務局】  
 事務局長  
 取締役工事担当 高橋潤吉  
 事務局員 鎌田賢治 及川興子

【取組活動単位】  
 場所別・部門別・現場別

【部長会議】  
 コミュニケーション総合窓口 総務部長  
 各業務責任者 各部門長



る  
ものとす  
る  
財務業務には関連会社も含め

標準的な見積もり業務は営業に

S X L 設計を含む

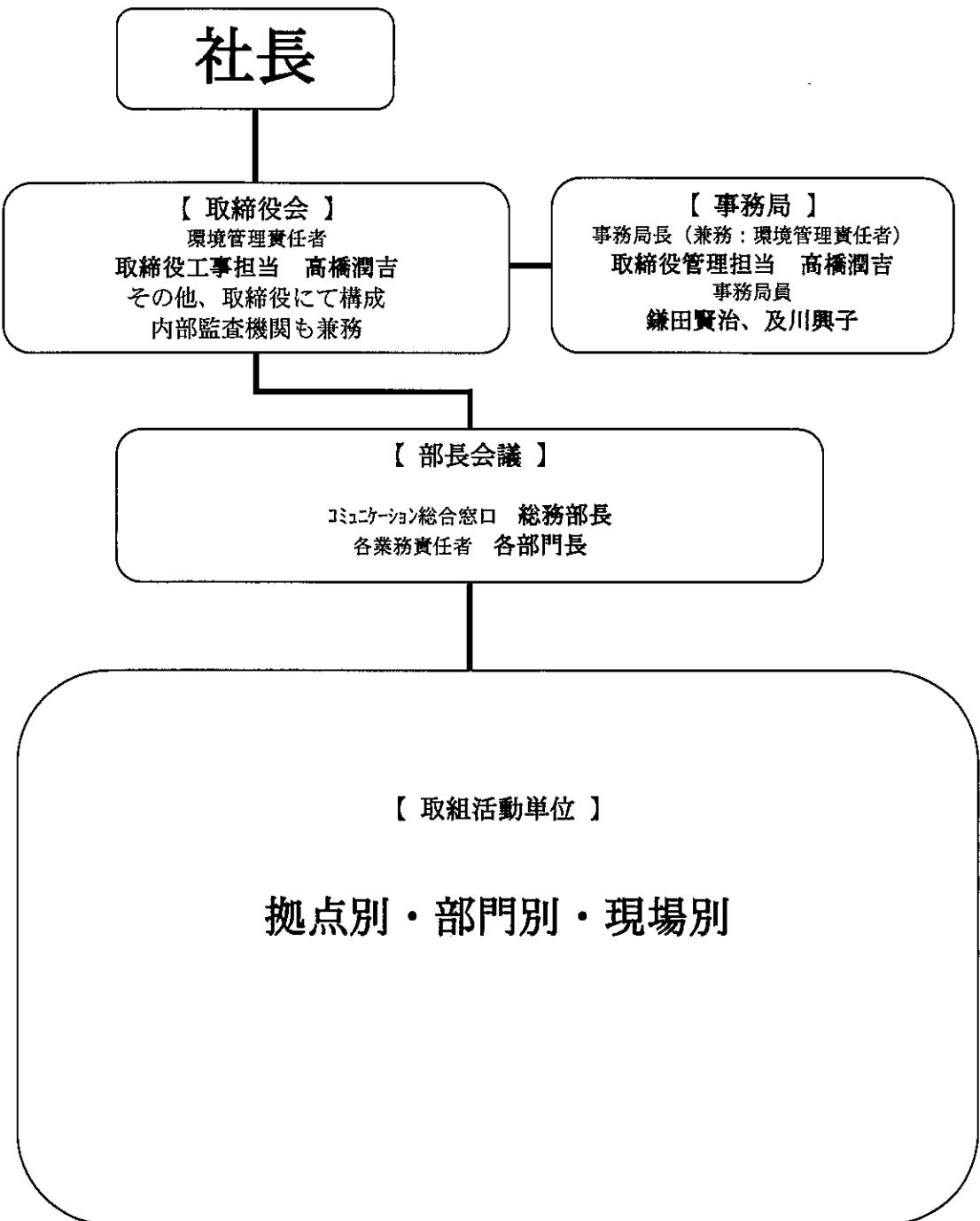
建築関係のみ

見積り・施工管理・契約等

修繕課は、S X Lを含む建築  
関連のメンテナンス

営業等は営業部にて

## エコアクション21の実施体制図



## 役割と責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	伊藤智仁	①環境管理責任者を任命する。②環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しを行う。③取組に対する資源を用意する。④方針を決定する。
環境管理責任者	高橋潤吉	①代表者に代わってシステムを構築し運用する。②代表者に結果を報告する。
取締役会	各取締役	①取締役会を内部監査の組織とする。②取締役会は週1回、執り行われており、必要に応じて環境管理責任者が議題を提案、決議を行う。
各業務責任者	各部門長 (センター長含む)	各業務内において①省資源、省エネ、節水を奨励・実施する。②必要な教育訓練を計画し実施する。③EA21目標達成の取組を推進し、チェックし、環境管理責任者の了承の下必要な是正処置・改善を行なう。④公害防止、緊急事態への予防処置を行う。
コミュニケーション窓口	総務部長	①地域住民、関連機関からの苦情等の窓口業務を行う。②苦情への対策・予防処置策定を行い、代表者の承認を受け関係者に実施を指示し、経過・結果の報告を受け改善・定着を図る。
事務局	環境管理責任者、他	活動の取り纏めを行う。
従業員	全員	①各業務責任者の下、省資源、省エネ、節水に努める。②EA21取組に関する教育訓練を受ける。③自主的に会社の推奨する地域の自然保護活動に参加する。④改善提案を行う。

## 《環境方針》

(株)伊藤組は、建設構造物の施工・廃棄物処分事業を通じて、地球温暖化の防止、限られた地球資源の有効活用を図る。環境・品質・安心を企業責任の優先課題として、品質・環境経営マネージメントに社員一丸となり取組むことを誓約する。

又、地域社会の環境保全活動に参加するとともに、自社活動の一端が所属業界の標準となれるよう行動する。

## <環境行動指針>

弊社は岩手県地域を主とした建設事業を行っています。この事業活動における環境への影響を理解し、環境経営を一つの課題と位置づけて、従業員と協力し、EA21環境経営システムを構築運用し、継続的改善と汚染の予防に努め、以下の事項について自主的、積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 弊社は、次の環境活動を計画的に取組み実施します。
  - 車両運転を改善し燃料の削減をします。
  - 照明・冷暖房・工事施工・産廃中間処理工程の節電に努めます。
  - 建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。
  - 水資源使用の削減および排水の汚染、汚濁の防止を図ります。
  - 施工で使用する材料に含む化学物質を適切管理します。
  - 環境に配慮した施工を推進します。
  - グリーン購入の拡大を推進します。
  - 地域との連携をとり地域の環境保全活動に参加します。
3. この環境方針は全従業員に周知、徹底します。

平成27年3月7日

株式会社 伊藤組

代表取締役 伊藤智仁

# 環境目標設定書

## (1) 短期及び中期数値目標

項目	単位	基準値	53期目標	54期目標	55期目標
二酸化炭素排出削減	kg-CO <sup>2</sup>	1,035,768	1,025,410	1,015,156	1,005,005
電気使用量削減	MJ	2,736,584	2,709,218	2,682,126	2,655,305
燃料使用量削減	MJ	12,375,075	12,251,324	12,128,811	12,007,523
紙使用量削減	t	1.88	1.86	1.84	1.82
水使用量削減	m <sup>3</sup>	1,969	1,949	1,930	1,911
廃棄物削減	t	21,352	21,138	20,927	20,718

(53期~55期は過去3期のベスト実績数字を基準値とし、年次1%を削減目標とする)

(なお、事業量に応じて総量が変化するが、基本、削減するように努める)

## (2) 各業務での目標について

「結果の集計、行為の列記」のレベルから「成果を出せる」レベルに向けて活動のベクトルを修正していきます。

1. 課題に対する具体的なアクションを決め、そのアクションの効き目を確かめる手法による取り組みを習得する
2. 失敗を活かす、失敗により学んだことを活かす取り組みにするために、実施した取り組みにより得た成果により、次の取り組みがどのように変化、工夫されていったかを確認する手法に切り替える。実施した取り組みにより目的に近づいているかを常に意識すると、実施した取り組みによる結果を、次の取り組みに取り入れることが可能になるはずである。これを半年サイクルで内部監査も含めて対応する。
3. 取り組みの内容のレベルアップにより「成長が実感できる」とは、どういうことかを考えながら実施する。レベルアップにはPDCAの手法が欠かせない。計画し、実行し、その取り組みをチェックすることで次の取り組みに繋げる流れを「2」の流れを通して実現できるように対応する。

会社の方針、環境行動指針に掲げたことがどのように取り組まれているか、部門単位、半期ごと(結果については毎月集計)に見直すことで会社全体の環境改善活動に繋げていきます。

## 環境活動計画

数値的なものは三か年計画で活動を見ていくが、今期はその初年度である。

環境活動計画及び具体的な取組を次のとおり策定した。

### 1. 環境関連法規の遵守について

環境関連法規については、とりまとめ表の定期的な見直しを実施する。

特に「現場」の部分については、施工計画などに盛り込みながら活動する。

### 2. 重点的な環境活動について

#### ① 燃料使用量の削減

- ・車両のエコドライブの励行。
- ・事務所内の暖房温度を適正化する。集中暖房とブルーヒーターの使い分け。

#### ② 電気使用量の削減

- ・昼休み時間の消灯、不用な電気の消灯。
- ・残業及び夜間時照明は必要最小限度にする。
- ・1時間以上席を離れるときは電源を切る。帰宅時はPCのコンセントを抜く。
- ・冷房設定は事務所内温度の適正化する。

#### ③ 廃棄物発生の抑制

紙資料の削減の推進

- ・仕入れ数量の適正化。
- ・ゴミを分別してリサイクルに努める。

#### ④ 水使用量の削減

- ・生活用水を出しつぱなしにしない等節水に努める。
- ・給油所内の散水は出しつぱなしにしないで節水に努める。

#### ⑤ 化学物質の適切管理

- ・SDSの活用を行う
- ・建設材料選定時のチェックに努める。
- ・溶剤等の利用状況の把握、在庫の管理に努める。

#### ⑥ 環境に配慮した施工の推進

- ・施工計画に盛り込んだ活動を行う。

#### ⑦ グリーン購入の推進

- ・グリーン購入品を限定し、利用を推進する。

#### ⑧ 地域環境への貢献

- ・環境ボランティア活動への参加。
- ・空き社有地を地域活動に貸出す。
- ・職場体験の受入。

### 3. 環境方針の全従業員への周知、徹底

## 環境活動の取り組み結果と評価

### (1) 53期（平成26年10月～平成27年9月）の取組結果

項目	単位	53期目標値	53期実績値	達成の可否
二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	1,025,410	1,036,771	×→×
① 電気使用量削減	MJ	2,709,218	2,747,279	○→×
② 燃料使用量削減	MJ	12,251,324	12,351,347	×→×
③ 水使用量削減	t	1.86	2.17	○→×
④ 紙使用量削減	m <sup>2</sup>	1,949	1,590	×→○
⑤ 廃棄物削減	t	21,138	12,256	×→○
⑥ グリーン購入推進	—	—	—	○
⑦ 地域環境貢献	—	—	—	○

※購入電力の排出係数は、東北電力の実排出係数(平成23年)を使用した。0.547(kg-CO2/kWh)

※⑤廃棄物削減については、H26年4月～H27年3月データより算出

### (2) 取組評価

53期は中期計画（三ヵ年）の初年度であり、新たな目標のもと、活動を開始している。

会社の方針からの各部門への落とし込みの活動を前期52期より重点的に行っており、部門での活動計画及び実績の確認（半期ごと）を内部監査にてフォローする流れを継続している。内部監査にて次期計画の立案について協議し、各部門でその協議内容を反映させていくことが継続できている。

取り組みの結果については、温室効果ガス排出量は前年より17,799kg-CO2ほど削減出来てはいるが、目標の削減には若干届かない状態であった。工事量が増え、売り上げが伸びている中で総量としては削減できているところは一定の評価ができるものと考えている。

電気の使用量、燃料の使用量、水の使用量とともに総量としても削減は出来ていない。

従来の削減活動での一つの限界点を迎えており、次なる手法で削減に努める必要が出てきたと思われる。来期54期はデマンド管理による電気量のコントロールを始め、他社の取り組み事例を参考に会社としての具体的な取り組みも計画していく必要があると認識する。

会社としての環境活動の一つ、メガソーラーは計画対比で20%増と順調に発電している。

地域の環境活動、清掃活動にも積極的な参加をしており、地域環境貢献については継続的な貢献が出来ているとのものと判断します。

## 次期取組内容

環境方針に基づく活動の例を事前に検討し、検討した内容を参考に当期の計画を立案してもらうことにより、より掘り下げる活動、効果的な活動に繋げたい。

### ■手順

- ①「環境方針に基づく活動の参考の取り組み」についての確認
- ②参考の取り組みから選択、または元にして部門の取り組みの決定  
(達成の状態を数値または状態(○○になっていればよい)を定める)
- ③半期ごとに実施事項の見直しを実施する。

<p>【出た話題】 使用費を把握する（車ごと、現場ごと、拠点ごと）。 比較をする（スタンドの実データと、個別の日報の集計データ）。 エコ運転のチェックをする。 アイドリングストップの徹底。 車内清掃による荷物の整理。 車両距離確保の普及。 外部講習会への参加。 内部講習会の開催。 運行ルートの見直し。 状況の報告の場の作成。</p>	<p>【出た話題】 建設リサイクルを取り扱い、廃棄物を削減します。 再利用計画を立てる。 施工方法を改善提案。 燃えないゴミに再利用できるものが入っているので点検。 スプレーベンツの再利用。 適切な荷物用意のための管理。 打合せはオーバーレース化。 ゴミの量を定期的に確認。 造成地で確保。 土の搬出に関する情報交換。 民間工事で隣接の同時施工。 分別の徹底。</p>
<p>【どれをどうすると燃料の削減になるか】。 ①燃費を維持するためエコ運転を取り組みます（個人メイン）。 ・燃費のチェック。 エコ運転が出来ているかのチェック。 会社有車の使い方の見直しを取り組みます（部門メイン）。 ・車、部署の荷物量の把握。 ・スタンドの実データと報告の内容の検証。 ・配車の見直し、ルートの見直し。 ・積載物のチェック。 ・使用台数の削減。</p>	<p>【どれをどうすると廃棄物の削減になるか】。 ①施工部門として建設リサイクルを取り組みます。 ・建設リサイクル法の正しい認識。 ・特許権投資材のリサイクルの推進。 （コンガラ、アスガラ、木材、鉄など）。 ②排出する廃棄物削減に取り組みます。 ・社内の廃棄物削減するための活動（総務部門など）。 ・工事現場での廃棄物削減する活動（施工部門）。 ③「①」や「②」の取り組みを営業主体でPRします（営業部門）。</p>
<p>■説明・会議履・工事施工・産廃中間処理工程の節電に努めます。 【出た話題】 社内の電気製品が本当に必要なものか確認する。 工具が當無様（必ず手を離す）をダメです。</p>	<p>■水資源使用の削減および排水の汚染、汚濁の防止を図ります。 【出た話題】 洗車の場所、回数を決める。 雨水の再利用を決める。</p>
<p>■施工現場における工具材料、工具機器、エコ重機の利用、購入を取り組みます。 ②施工計画に「環境」をキーワードとした取り組みを盛り込みます。 ③環境汚染に繋がる材料を使わないようにします。 ④効率の高い作業方法を検討し、無駄なエネルギーの削減に取り組みます。</p>	<p>■この環境方針は全社員に周知、徹底します。 【出た話題】 部門の朝礼、終礼にて啓示。 強化月間活動の活動。 方針や部門の取り組み内容を定期的に発表する場を設ける。 取り組みの状況を報告する場を持つ。</p>

図 - 環境方針に基づく活動の参考の取り組み

### ■注意点（社長より）

「確認」や「チェック」と言う表現がふんだんに使われますが、次の意味合いについて考えてみてください。

あって欲しい姿は『やったかどうかチェックして、磨かれたかどうか確認する』

言葉の意味は、チェックも確認も同じですが、前半と後半では伝えたい意味が違います。

逆にして、『やったかどうかを確認し、磨かれたかどうかチェックする』も同様です。

仮に、『やったかどうかをチェックして、磨かれたかどうかチェックする』とすれば違和感があるでしょう。

ようは言葉は何でも構いませんが、意図することが理解出来ないと取組み後の姿を変えることが出来ません。

エコに限らず、何をしようとして取り組むのか固めていないとチェックと言う無駄な行為が起きてしまうのです。

この点に注意して検討してみてください。

## 環境関連法規等の違反、訴訟等の報告

環境関連法規制等遵守チェックリストにより評価した結果、環境関連法規等への違反はありませんでした。産業廃棄物処理についても「いわて地球環境にやさしい事業所認定」の取組等において、適宜、対応しております。

関連当局より違反、訴訟等はありませんでした。

## 代表者による全体講評と見直し

エコ調査の総括グラフを見る限り現場(スタンド含む)は工事量の変動があるので数値の信頼に欠けますが、部門活動に於けるガソリン・灯油・水道・ガス・電気・廃棄物の傾向は良好に対応が進んでいる様子が解ります。一方、報告書を見る限り何が起因してこうした結果に至ったのか触れられていないのは残念です。推測すれば繰返し注意喚起していたエコ運動の周知とは思われますが、この状態を卒業しないと当社の掲げる「社会に役立つ環境活動」という方向に進んで行きません。

未だ報告書の内容が、集計活動や行動列記といった例年の傾向から抜け出していません。実は、ここから抜け出す方法については「結果に興味を抱く予実績」「優先順位による課題の絞込」「上昇を楽しむPDCA」など過去何度も手法を示唆しています。

さて、これを実現できない理由は何処にあるのかです。

一見的外れに感じるかもしれません、この状況を何度も繰り返すことから推測すると組織活動の進め方にあると感じます。立場の上下問わず組織全体が管理者や上司という言葉について誤った理解をしていると考えます。そもそも技術やサービス・経営の向上を図るには、個々の能力(職人技)によるものと組織分業(役割分担)による二つのケースがあります。一般に、職人技は汗(労働時間)に比例し小組織で力を発揮し、役割分担は智恵に比例し大組織で力を発揮します。一日は24時間しかないので汗を基本とする職人技に生産性の限界があります。しかし、智恵は生産手段に着眼しているので目指す生産効率に限界はありません。更には、小の延長が大では無いし、大が小を兼ねることもありません。寧ろ誤った対応は逆効果に発展します。

当社は100人を超える組織ですから役割分担をもって事に当たらなければなりませんが多くの部分が個人技の集合体になっている。管理者が管理によって生産向上をはかる者では無く、単なる地位の上位者で個人プレーの手本を示すことが良き上司と勘違いしてしまうのです。これでは折角の組織も分業機能を発揮できません。

例は極端ですが、誤った上司感覚とは手工業中心の時代の看守と労働者のようなものです。嫌われ者の看守は鞭を持ち休ませずに働くかす、人気者の看守は鞭など持たず、しかも自らも手伝います。夫々の人物評価は大きく違うでしょうが、その実、生産性の格差は倍と生じません。ところが産業革命以降の上司は鞭を智恵に持ち替えて生産性を数百倍数千倍と変えたのです。

つまり管理者(上司)とは、出来る労働者では無く組織力を上手に引き出す管理人でなければならないのです。昨今は、労働者のレベルも上がり、ややもすると管理者がこれに負けじと競ってしまいがちですが、本来の管理者業務を見失ってはなりません。

故に、もう一度、組織の方針や重点課題を振り返り、これらを磨くための役割が何たるかを再考し「結果に興味を抱く予実績」「優先順位による課題の絞込」「上昇を楽しむPDCA」といった手法の根付いた風土を築きあげねばなりません。これをマスターすれば経営理念に磨きがかかる環境活動も社会に役立つものへと生まれ変わるはずです。

代表取締役 伊藤智仁



# 地域社会貢献一覧

No.	期間	行事名	内容	団体名	受入人数	参加人数
1	H26.10.3	建設業協会花巻支部青年部建設業ふれあい事業	県立花巻農業高等学校 環境科学科 測量実習、建設機械試乗体験	建設業協会花巻支部 青年部	2年生42名	1名
2	H26.10.6～10	就業体験(インターンシップ)	一般土木現場体験及び測量実習～成果作成	県立黒沢尻工業高等学校	2年生2名	5名
3	H26.12.24	奉仕活動(北上市道)	道路視線誘導標の反射効果確保のための清掃	独自事業		6名
4	H27.2.12	奉仕活動(北上市道)	市道函渠照明灯の清掃	独自事業		5名
5	H27.2.13	奉仕活動(北上市道)	市道注意看板の視認性確保のための阻害要因除去・清掃	独自事業		6名
6	H27.3.5	奉仕活動(北上市道)	市道函渠照明灯の清掃	独自事業		5名
7	H27.3.5	奉仕活動(北上市道)	道路清掃	独自事業		5名
8	2015/4/16	北上川河川敷清掃活動	河川敷の清掃活動	建設業協会花巻支部		4名
9	H27.5.13	災害緊急活動	地震後の災害発生状況の確認	岩手県県南広域振興局花巻土木センター		5名
10	H27.5.13	災害緊急活動	地震後の災害発生状況の確認	花巻市		5名
11	H27.7.15	建設業協会花巻支部青年部建設業ふれあい事業	市立南城中学校 測量体験、建設機械試乗体験 排水不良箇所の暗渠設置 ソフトボール場重機転圧	建設業協会花巻支部 青年部	3年生93名	1名
12	2015/8/10	「道の日」関連道路清掃活動	市道ゴミ収集・清掃	建設業協会花巻支部		4名
13	2015/9/25	「空の日」関連道路清掃活動	県道ゴミ収集・清掃	建設業協会花巻支部		3名
14	H27.9.28～30	就業体験(インターンシップ)	一般土木現場体験及び測量実習～成果作成	県立花巻農業高等学校	2年生3名	3名

■公共工事現場では、1回以上各現場で地域貢献を実施

## 廃棄物処理組織概要

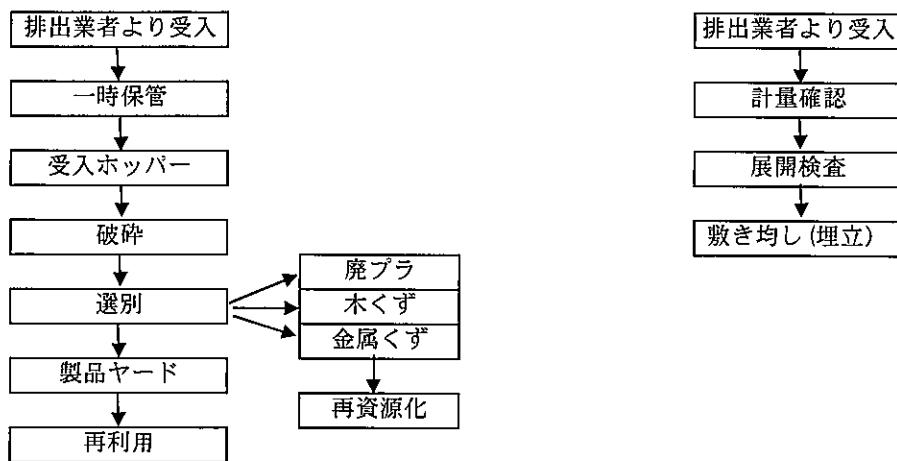
### 組織の概要(情報公開)

事業の規模	事業年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	売上高 (百万円)					
	収集運搬量	0	0	0	0	
	中間処分量 t	95,169	93,147	104,164	104,349	
	最終処分量 m <sup>3</sup>	569	758	564	600	
	社員・従業員(名)	135	135	128	135	
	法人設立年月日	昭和38年2月1日	資本金	99.95	百万円	
	許可名／許可番号	年月日	事業計画・事業の範囲(事業区分、廃棄物の種類)			
許可の内容	産業廃棄物処分業	許可 342011047	平成25年11月27日	中間処理(破碎処理) がれき類及び陶磁器くず。		
		有効	平成30年11月26日	固定破碎Ⅰ 岩手県滝沢村滝沢字後268番地他 固定破碎Ⅱ 花巻市二枚橋第5地割473番地15		
				中間処理(移動式破碎施設による破碎処理) がれき類及び陶磁器くず。		
				移動式 岩手県滝沢村滝沢字後268番地他		
				最終処分(埋立処分) がれき類		
				安定型最終 花巻市幸田第8地割401-1		
	産業廃棄物収集運搬業	許可 342011047	平成25年11月27日	燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類		
		有効	平成30年11月26日			
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数
	中間処理施設			最終処分	安定型埋立	
	固定破碎Ⅰ	がれき類		ホイルローダー	1.4m <sup>3</sup>	1台
	破碎機	85t/h	1台			
	ホイルロータ	2.1m <sup>3</sup>	1台			
	油圧ショベル	0.7m <sup>3</sup>	1台			
	固定破碎Ⅱ	がれき類				
	破碎機	100t/h	1台			
	ホイルロータ	3.9m <sup>3</sup>	1台			
	油圧ショベル	0.7m <sup>3</sup>	1台			
	移動式破碎機	固定破碎Ⅰと同一				

処理方法・処理工程

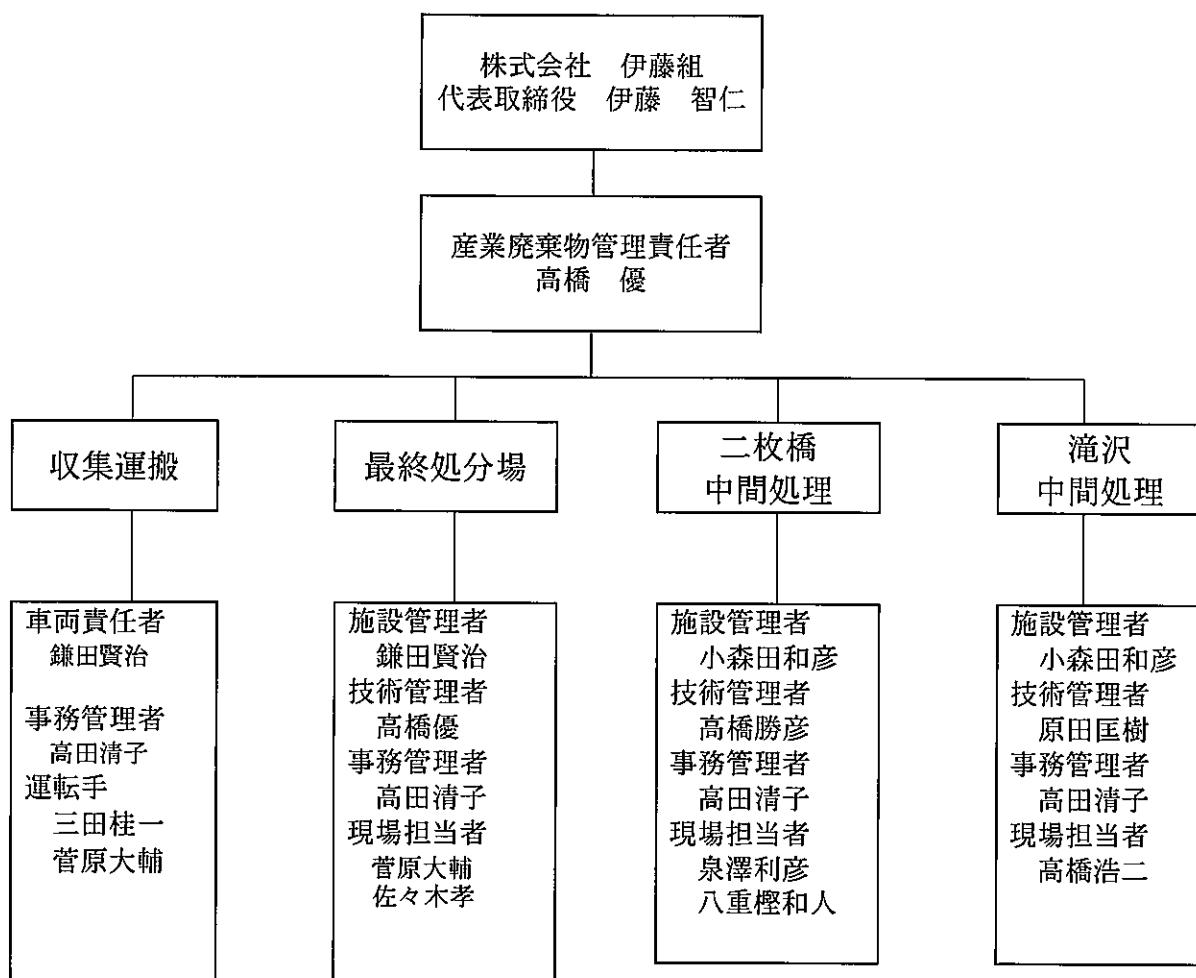
中間処理施設

最終処分（安定型埋立）



廃棄物処理料金	処理物	標準価格	単位	受入基準・処理方法
	アスコン塊	1,800	t	50×50角、破碎後再利用
	コンクリート塊（無筋）	1,800	t	50×50角、破碎後再利用
	コンクリート塊（有筋）	2,300	t	50×50角、破碎後再利用
	二次製品	2,800	t	破碎後再利用
	がれき類（安定型最終処分）	7,000	t	埋立て

## 産業廃棄物処理 組織図



# 株式会社伊藤組 産業廃棄物業者 情報公開ウェブサイト概要

## ●マネジメント

- 9-2 会社情報
- 9-3 事業計画の概要、最終処分、中間処理、収集運搬許可証
- 9-4 財務諸表
- 10-3 処理施設の概要
- 2-1 産業廃棄物処理 組織図
- 6-2 環境保全技術に関する資格者及び講習修了者一覧表
- 6-3 関係する講習会受講一覧表及び、有資格者、講習修了者一覧表
- 9-5 処理料金表

## ●幸田最終処分場

- 6-1 実績表
- 6-2 施設の概要
- 6-3 埋立処理工程
- 6-4 施設維持管理記録

## ●中間処理場（二枚橋・滝沢）

- 6-1 実績表
- 6-2 施設の概要
- 6-3 破碎処理工程
- 6-4 施設維持管理記録

## ●収集運搬

- 4-1 運搬車両一覧表
- 4-2 実績表